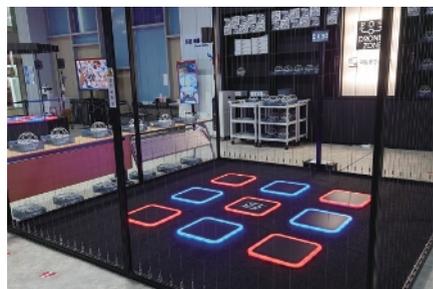


韓国の科学館に行ってきました その2

私は2024年12月に、全国科学館連携協議会が開催する海外科学館視察研修に参加する機会をいただき、韓国の3つの科学館を公式訪問しました。その1に続いて、この研修を通して見学・体験させていただいた展示やプログラムなどを紹介します。

国立中央科学館

ソウルから車に揺られ、大田広域市へやってきました。次に訪れたのは国立中央科学館。この科学館も広大で、大学のキャンパスのように建物が複数に分かれています。もともとはソウルにあり、1990年に大田へ移動してきたようです。



先端技術を表示するScience Alive Discovery Centerでは、ドローンの操縦体験ができます。球形のドローンを左右上下へ動かす操作や、ドローンを使った勝負ができるようです。この勝負はドローンをうまく操作し、床の色(左写真の赤と青の四角い枠)を変えていく、陣取り合戦式のルールだそうです。



ドローンだけでなく、VRを体験することもできます。Eccentric scientist's virusは、「とある博士の研究室に忍び込み、ウイルスを盗み出す」というシナリオで、仮想現実と脱出ゲームを組み合わせたようなVR体験ができるようです。ゴーグルを装着し、専用の部屋の中で体験が行われます。体験者は仮想現実中で与えられたミッションに挑戦していきます。部屋の外から

見学していると何も見えませんが、体験者には部屋の中に家具が置いてあったりと、いろいろなものが見えているようです。部屋の外にいる人はモニターを介して、体



験者の目に映るものを見ることが出来ます。職員の方によると、VRを実際に体験し、VR技術の発展を学んでもらう意図が、この体験には込められているようです。



Science and Technology Hallには、大きな輪に固定された自転車のようなものがありました。Centrifugal Forceという体験型展示で、運動・位置エネルギーなどについて学ぶことができます。頑張ってペダルを漕ぎ、大きな輪の内側をグルッと一周することを目指します。



私はかなり体力を使って頑張りましたが、1度も一周できず…。韓国の方だと、数回漕いただけで一周できるそうで、自身の体力のなさを痛感しました。

昆虫が食べられる展示？

過去から未来への技術・産業・社会の変化を紹介するFuture Techには、スマート冷蔵庫がありました。これは食糧難を題材にした展示で、その場で昆虫食を食べることができました。職員の方が出してくださったのは、何かの幼虫(?)。私は食べませんでしたが、食糧難の危機によっては昆虫を食べる未来もあるのだと感ずることのできる展示でした。



木村 優斗(科学館学芸員)